

## 研究推進校事業報告書

### <取組と成果のポイント>

#### (1) 授業の展開の仕方

- ・授業案の立て方・授業の展開をスタンダード化し、対話を中心とした実践を重ねたことで、子どもたちが他者の意見と比較し、物事を多面的・多角的に考えることができるようになった。

#### (2) 板書の工夫

- ・「心情ハート」や「心情バロメーター」などフィードバックしやすい掲示を活用し、ねらいや資料にあわせた板書に取り組んだことで、子どもたちは他者との違いを視覚的にとらえることができた。また、「道徳的価値レベル」を明確にした板書作りを各部会で検討したことで、教員の共通理解と資質向上につながった。

#### (3) 評価の取組

- ・ワークシートをファイルに綴じたり、ノートに貼ったりすることで、ポートフォリオとして有効活用した。振り返りの記述を蓄積していくことで、児童の道徳的価値理解への深まりの変容をとらえることができた。

### 1 研究推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児 童 数	備 考
田原市立大草小学校	田原市大草町東畑 43 番地 2	(0531)22-0702	82 人	/

### 2 研究課題

#### (1) 道徳科における、指導と評価の一体化を目指した、効果的な指導方法の研究

- ① 外部講師を招聘した計画的な授業研究会（年5回）を行い、工夫された発問や対話活動により、考えの広がりや深まりを支援できたか。また、多面的・多角的な考えに至ったか等の視点で研究協議会を行う。
- ② 『特別の教科 道徳』と他教科・行事等の関連を全体計画の別葉にて明示する。
- ③ 板書計画を主にした授業案様式を用いて授業研究を行い、授業の流れと考えの関係性を視覚的にとらえられる板書のあり方を明らかにする。
- ④ 指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか、録画や板書記録等で子供の姿をもとに検証し、今後の指導を改善していく。

#### (2) 子供が自らの成長を実感し、意欲の向上につながる評価方法の研究

- ① 授業の終末に振り返りを行うことで、道徳的価値について理解を促す。
- ② 振り返りを記入する道徳ノートをポートフォリオ化し、蓄積した振り返りを見返すことで自己の変容を自覚できるようにする。
- ③ 子供たちがいつでも授業内容を思い出せるように、内容項目にもとづいた振り返りの掲示をする。

### (3) 地域・家庭との連携による道德教育の取組の研究

- ① 教材として地域の昔ばなしや偉人を取り上げる。
- ② 特別活動等多様な実践活動を道德教育に生かす工夫をする。学校行事や委員会、縦割り班活動での体験や感じたことを道德科の授業に取り入れ、今後の活動に生かせるようにする。

## 3 研究主題とその設定理由

研究主題名 「特別の教科 道德」を要とした道德教育の充実  
—道德科の指導と評価の一体化—

本校は、「自ら考え学びとる子 思いやりのある子 たくましさのある子」を校訓に、知・徳・体の調和のとれた、たくましく元気な「大草の子」を育てることを学校の教育目標にしている。

全校児童82人の小規模校である。元気よくあいさつができ、まじめで素直な児童が多い。地域は、学校に協力的で、地域としてのまとまりがある。学校生活では、教育活動全般において縦割り班活動を多く取り入れているので、学年に関係なく仲良く遊ぶこともできる。そのため、子供同士は学年の枠を越えて交流することが多く、全体が友だちという雰囲気がある。そのような授業においても、ささいな言葉の行き違いから悪口を言ったりけんかをしてしまったりすることがある。また、人との関わり方がうまくできずにトラブルが起こることもある。各学年ともに、自分と他者との関わりを主として取り上げながら心の育成を図っているものの、十分ではないと感じる。

そこで、道德科の時間における指導方法の工夫・改善を核にして、道德科の時間と他領域との関連を図りながら、子供たちの主体性を引き出し、他者と認め合える「あたたかい学校」の実現をめざしたいと考えた。

<めざす子ども像>

- ・自分や友だちのよさを認めることができる子
- ・学校生活をよりよくしていこうと自分から取り組める子

## 4 研究の概要

### (1) 研究仮説

仮説Ⅰ 道德科の授業やその他の教育活動において、教材の提示方法や話し合い等の指導と評価の一体化を図ることで、子供たちは、自分の考えをもち、他の考えを共感的に理解することができるであろう。

仮説Ⅱ 道德科の授業と他領域との関連を図り、継続的な評価をしていくことで、子供たちは道徳的な判断力や実践意欲を高めることができるであろう。

<仮説Ⅰの手立て>

- ① 多様な考えを引き出す発問の工夫

- ② 構造的な板書
- ③ トークタイム（ペアトーク・グループトーク・全体）

<仮説Ⅱの手立て>

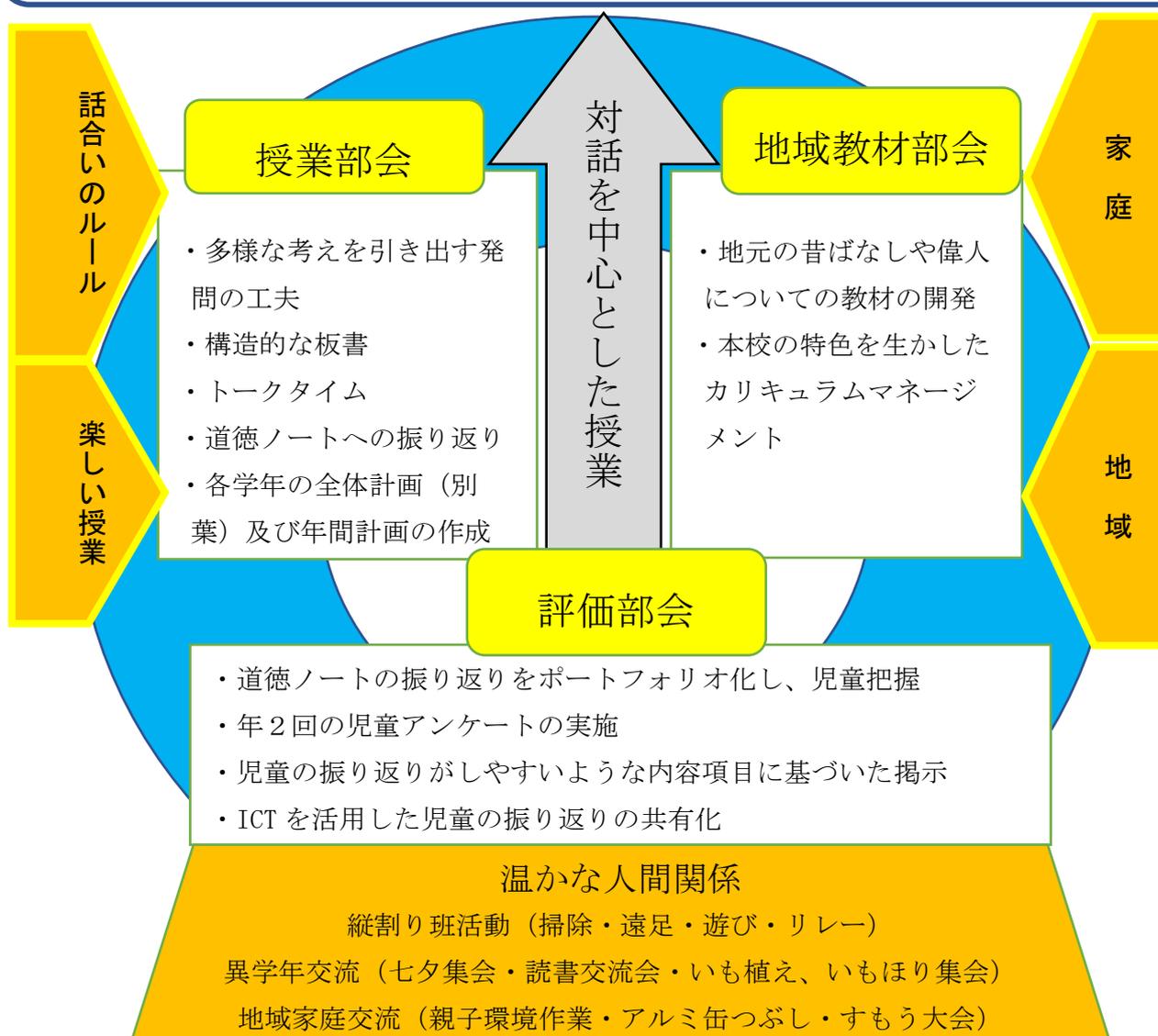
- ① 道徳ノートの振り返りをポートフォリオ化し、児童把握
- ② 年2回の児童アンケートの実施
- ③ 児童の振り返りがしやすいような内容項目に基づいた掲示
- ④ ICTを活用した児童の振り返りの共有化

(2) 研究構想図

研究主題 「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実  
—道徳科の指導と評価の一体化—

【めざす子ども像】

- ・自分や友だちのよさを認めることができる子
- ・学校生活をよりよくしていこうと自分から取り組める子



### (3) 研究組織

	授業部会	地域教材部会	評価部会
低学年部会	1・2・3年担任、 特別支援担任・校務	3年担任、特別支援担任	1・2年担任、校務
高学年部会	4・5・6年担任、 養教、教務	4年担任、養教	5・6年担任、教務

授業部会 全体計画、年間指導計画の作成。対話を中心とした授業の実践のための手立ての研究。

地域教材部会 地元の昔ばなしや偉人についてまとめる。

評価部会 児童の変容を明確にする評価の在り方の研究。

### (4) 研究課題にかかわる取組

「大草スタイル」として、7つの手立てをもとに、授業案の立て方、授業の展開をスタンダード化し、対話を中心とした授業の実践と検証を行う。

## 「大草スタイル」

### 1 授業の展開の仕方

導入 その1	子供たちの生活体験や体験学習から／主題と結びつけて想起する (仮説Ⅰ①)
導入 その2	道徳的価値に関する最初の考えや印象を確認⇔終末で比較
展開前段	中心発問をし、以下のいずれかのアウトプット活動を3回以上行う (仮説Ⅰ①・③)「書く活動」「話す活動」「役割演技・動作化」「立場表明」
展開後段	補助発問等で内容項目にかかわる多面的・多角的な意見を引き出し整理する。
終末	導入と同じ問いを投げかけ、自分と向き合う発問、自分自身を振り返る発問、友だちを認めることができる発問をする ・振り返りをする時間を確保する (道徳ノート・タブレット等使用) (仮説Ⅱ①・④)
授業後	学びの足跡を残す (仮説Ⅱ③) ノートに朱書きをする／授業の板書や振り返り等を、道徳コーナーに掲示する ／学級だより等で、家庭に発信する

### 2 板書の工夫 (仮説Ⅰ②)

・言葉を短く	13文字以内、いい悪い○×、増える減る↑↓、気持ち<>等の記号を多用
・挿絵を使う	ハート (心情を表す)、人・顔 (対立)、矢印 (思考のつながり、気持ち大小)
・ねらいや資料にあわせ	(例) 主人公の葛藤・・・黒板を分かりやすく上下で分ける (葛藤型) テーマが一貫している内容項目・・・黒板を3～4分割 (比較型)

て工夫	めあてから、キーワード化してつなげていく（イメージマップ型） 最初の場面と最後の場面の変容について比較していく（対比型） 伝記や偉人の教材・・・黒板左下（過去）右上（未来）（過去未来型）等
-----	--

### 3 評価の取組

#### ①道徳ノート・ワークシートを活用して進める評価（仮説Ⅱ①）

自分の思いや考えを自由に記述できる「道徳ノート・ワークシート」を活用し、児童の学びを肯定的に評価する。評価のコメントとしてノートに残し、児童の自己肯定感や実践意欲を高めることにも役立てる。

#### ②アンケートやICTを活用して進める評価

アンケート結果を児童と共有することで当事者意識を高める。

- ・年2回の児童アンケートの実施（仮説Ⅱ②）
- ・Google テキストやフォームを使って、子供の自己評価、相互評価、他者による評価等

## 5 研究計画

	月	実施内容	備考
1 学 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究概要の策定</li> <li>・校内研修会（研究目的・内容の周知と共通理解）</li> <li>・研究組織づくり</li> <li>・授業実践と研究協議会の計画立案</li> </ul>	
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳科全体計画、全体計画別葉、年間計画の見直し</li> <li>・指導案検討会①・模擬授業①</li> </ul>	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回意識調査（県教委作成）</li> <li>・6.1 全体授業研究（2年）講師①山岡亜矢先生</li> <li>・指導案検討会②・模擬授業②</li> <li>・6.27 全体授業研究（4年）講師②島恒生先生</li> </ul>	外部講師①  外部講師②
	7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7.20 講師②島恒生先生による教職員研修会</li> <li>・校内研修会（1学期の活動の振り返り）</li> </ul>	外部講師②
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討会③・模擬授業③</li> </ul>	
2 学 期	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9.28 研究推進校視察（知立市立知立中学校）</li> <li>・9.30 田原市教育委員会（指導活動視察訪問） 全体授業研究（6年）講師：鵜飼政代先生</li> <li>・指導案検討会④⑤</li> </ul>	市内道徳指導員

	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10.5 全体授業研究（1年）講師③：山田貞二先生</li> <li>・指導案検討会⑥</li> <li>・中間報告書提出</li> <li>・10.21 授業研究（3年）低学年部会</li> <li>・10.31 研究推進校視察訪問</li> </ul>	外部講師③  外部講師①
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案検討会⑦</li> <li>・授業研究会（特別支援）低学年部会</li> <li>・11.8 研究推進校視察（愛西市立八輪小学校）</li> </ul>	
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会（特別支援）低学年部会</li> <li>・校内研修会（2学期の活動の振り返り）</li> <li>・第2回意識調査（県教委作成）</li> <li>・研究紀要原稿作成</li> </ul>	
3 学 期	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育パワーアップ研修参加</li> <li>・事業報告書提出</li> </ul>	
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要作成</li> <li>・成果と課題の確認、次年度の計画</li> </ul>	

## 6 これまでの取組と成果・課題（成果○・課題△）

<仮説Ⅰに対する手立て>

### 【①多様な考えを引き出す発問の工夫】

○2年生の授業では、発問の前に、心情ハートや顔マーク、心情バロメーター等の挿絵を使った。その時の主人公の気持ちや表情、声の大きさに視点（指導）を与えることで、それぞれの個性豊かな考えを引き出す（評価）ことができた。また、5年生の授業では、タブレット端末を使用して、心情バロメーターや心の数直線を使い、自分の思いを数値化して表した。児童も他者との違いを視覚的にとらえることができ、他者の意見と比較し、様々な立場の考えを引き出した（指導）ことで、子供たちは、物事を多面的・多角的に考える（評価）ことができた。評価部会において、両学年の授業をもとに、指導と評価の一体化の達成度を検討したことで、今後の授業への方向性を再確認することができた。



心情バロメーターを見せ合う様子

○1年生「だれに たいしても（公正、公平、社会正義）」（教材名：ジャングルジム）では、まだ文章を書くことに慣れていないことや、登場する3匹すべての立場をとらえることが困難ではないかという理由から、相手を傷つけないと、悲しい思いをしたねこの2匹の言葉に焦点を当てて考える場面を設けた。2匹のやりとりを通して、子供たちに謝罪や許容の考えを引き出した（指導）ことで、自分の生活経験や思いから、さるくんだけ遊びたかったくまくんの気持ちや、くまくんの態度に納得ができないねこちゃんの気持ちを自分の言葉で表現（評価）できた。全体の話し合いを通して、いろいろな気持ちに触れたことで、他の子供たちの新たな気付きとなった。



焦点を当てて考えさせる様子

○7月に行った畿央大学の島先生の研修会では、ねらいに近づくための中心発問の大切さについて、全職員で研修した。その後の学年部会の検討会では、登場人物の気持ちを考える「心情理解レベル」から、その思いを支えている考え方・生き方の「道徳的価値レベル」の授業を展開するには、どのような繰り返し発問やゆさぶり発問がよいのかなどを話し合うことができた。

## 【②構造的な板書】

○授業記録になりがちな板書からの脱却を目指し、「心情ハート」や「心情バロメーター」等児童がフィードバックしやすい掲示を活用し、ねらいや資料にあわせた板書の工夫に取り組んだ。また、板書計画を立てて、各部会で検討することで、教員の共通理解と、資質向上につながった。

○5年生「社会に役立つとは(勤労、公共の精神)」（教材名：クール・ボランティア）では、主人公が「今までの自分（過去）」から、「前向きに未来へ進んでいく自分（未来）」を板書で示した。児童は主人公がだんだんと前向きに活動する様子に気付き、主人公の満足感に共感することができた。

△島先生に指導していただいた「道徳的価値レベル」を明確にした板書作りについて、道徳科の

目標やねらいをもう一度見直し、「深い学びの鍵」となるような板書を目指し、今後、研究を重ねていきたい。



工夫された板書の様子

【③トークタイム（ペアトーク・グループトーク・全体）等】

○うろうろしながら意見交流をするトークタイム（ウロウロトーク）では、自分や相手の考えを伝えたり聞いたり、わくわくしながら自分や相手のよさを見つけたりする様子がうかがえた。豊かな人間性を育む活動で、各々の思いを知り認め合う子供同士の相互評価につながった。また、座席の工夫（コの字、イスだけ）をすることにより、活発な意見の交流や議論につながった。



○3年生「ささえてくれる人を思って（感謝）」（教材名：とくジーのおまじない）では、役割演技で意見交流を行った。名札を付けたり、その人になりきることができるとような雰囲気作りをしたりすることで、感謝の気持ちの伝え方や、伝えられた時のうれしさを言葉や態度で示すなど、本音で交流する場面が見られた。多くの児童が積極的に演技や感想を発表するなど、自分の考えをもち、他の考えを共感的に理解する場として役割演技は有効であるという結果が得られた。

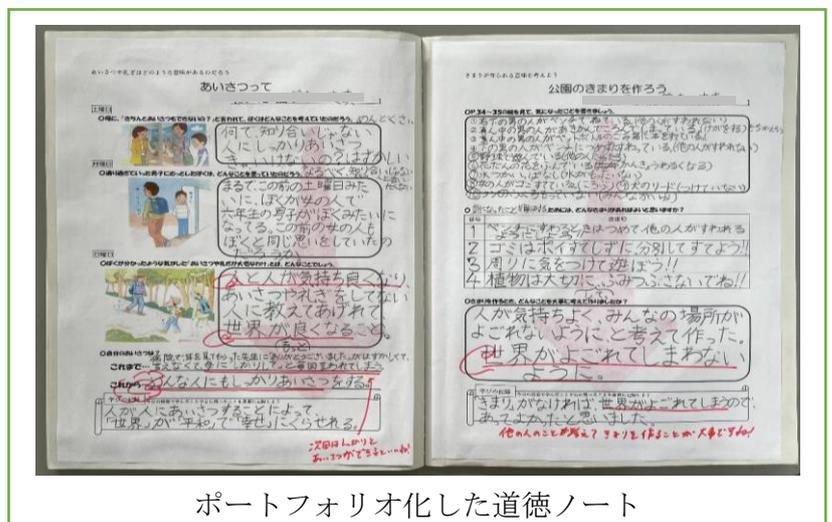


△トークタイムをより高めるために、役割演技が有効であることが確認できた。どんな場面が適切であるかを、今後検討していきたい。

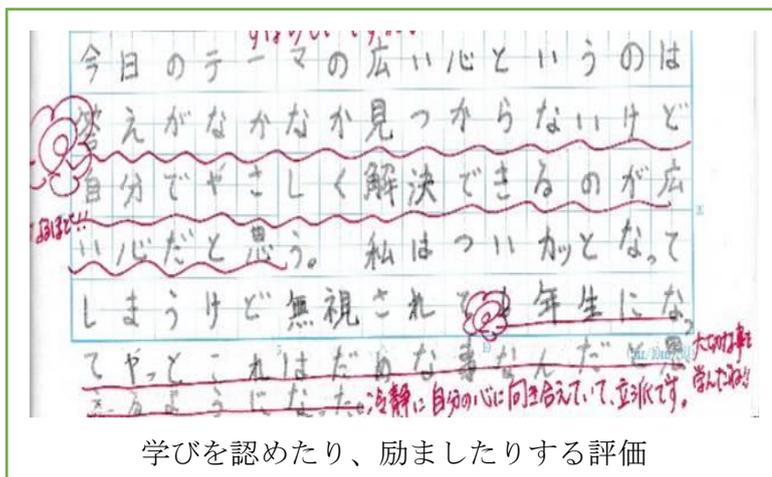
<仮説Ⅱに対する手立て>

【①道徳ノートへの振り返りをポートフォリオ化し、児童把握】

○ワークシートをファイルに綴じたり、ノートに貼ったりすることで、ポートフォリオとして有効活用した。学年に応じた書き方や分量を考え、振り返りの記述を蓄積していくことで、児童の道徳的価値理解への深まりの変容をとらえることができた。また、道徳ノートへの朱書きの書き方について



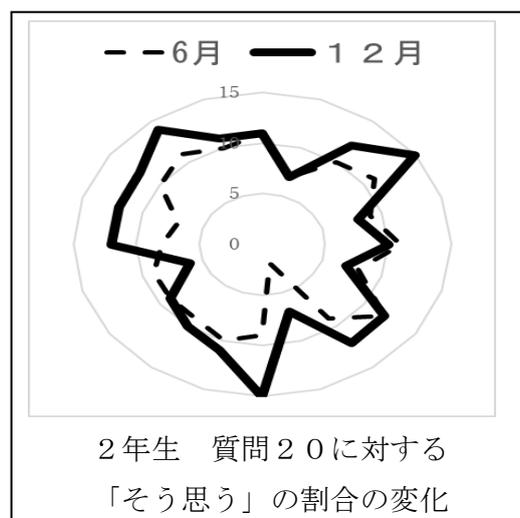
は、評価部会において、児童の実際の振り返りをもとに指導と評価の一体化につながっているかを吟味し、留意する点について共通理解を図った。ノートを返却すると、児童はすぐにノートを開いてコメントを確認していた。児童一人一人の学びを認めたり、励ましたりする評価を継続することは、児童の背中を後押ししたり、勇気づけたりするものになっており、自己肯定感の高まりにもつながった。



△道徳ノートの様式やサイズが学年ごとばらばらであった。6年間を見通して使いやすく、見返すことができるようなノート活用法について、今後検討していく必要がある。

### 【②年2回の児童アンケートの実施】

△児童アンケート結果を検証し、活用していく方法を見いだせずにはいたが、島先生のアドバイスにより、アンケート結果から、劣っている価値項目を重点課題にするのではなく、優れている価値項目をさらに伸ばすために授業に取り組んだ。6月のアンケート結果から、自校の児童は、「自分の意見を伝えることができ、人の考えをよく聞いている」という割合が高かった。また、「自分の住んでいる地域のよさを知っている」、「動物や自然を大切にできる」などの割合も高い。1月のアンケート結果では、6月の結果以外にも、「自分にはよいところがある」「自分では自分でおこなっている」などの割合が高まっていることがわかった。児童を加点的に見ることを見直し、全職員で共有したことで、それ以外の項目の相乗効果が表れたものと考えられる。



### 【③児童の振り返りがしやすいような内容項目に基づいた掲示】

○高学年では、本時のテーマをセンテンスカードに書いて視覚的に示すことで、児童は、テーマを意識しながら振り返りを書くことができた。また、「今週の道徳コーナー」や系統的に指導された価値の一覧を示した「大草小 道徳の木」等を作り、道徳科の時間で獲得した価値が一目で分かるように掲示した。児童の中には、意識して生活する姿も見られ、生活と道徳科の時間をつなぐこと



に有効であった。

△学級通信、学校通信、ブログ等で、授業で扱った教材の概要や学習テーマ、児童の発言や道徳ノートに記述したこと、授業の内容等を保護者や地域に発信した。今後は、授業公開等で積極的に道徳科の授業を行い、家庭や地域と一緒に考えることで、さらなる道徳性の高まりを目指したい。

#### 【④ICTを活用した児童の振り返りの共有化】

○4年生では、Google タブレットのアプリ「ドキュメント」をツールとして活用した。児童同士の考えを自由に見ることができ、共有化できる利点があった。担任が投げかけた道徳的価値に関する発問に対して、自分と向き合いながら考えを書き込む児童や、書き込んだ後に友だちの意見を見て、自分の考えと比較しながら、再構築する様子も見て取れた。自分の考えを残し、蓄積していくことで、自己の生き方についての考えを深める有効な手立てとなった。

○「自然の大切さ」→「SDGs」というワードを残した児童は、夏休みの自由研究で「SDGsでくらしをよくしよう」という研究を実践し、多くの児童にSDGsに取り組む必要性を問いかけた。このような、道徳科の授業と他領域との関連を図り、継続的な評価をしていくことで、道徳的な判断力や実践意欲を高める結果となった。

△ICTの活用について、児童の考えや振り返りの分析が、工夫次第で教師同士の共有財産となり、今後の指導と評価の一体化の推進に有効活用ができそうである。高い効果が期待できる方法をこれから模索していきたい。

全学年が単学級ということもあり、昨年度までは道徳科の授業について他学年の担任と相談しながら進めることはあまりなく、担任がそれぞれの方法で授業を行ってきた。しかし、4月から、全職員で授業研究を進めたことにより、少しずつではあるが、道徳科の授業に関する共通理解を図れるようになってきた。また、道徳科の研究を進めていくうちに、他教科との関わりやつながりの重要性を感じた。さらには、日々の授業で児童と向き合い、本音で語り合い、わかり合うことで、信頼関係が生まれ、道徳科の授業での深い学びにつながるものがよくわかった。今後は、異学年とのつながりや、仲間同士のつながりが深い本校のよさをさらに伸ばしつつ、今後も研究を重ねていきたい。



家庭とつなぐ道徳



振り返りを打ち込む様子